

歴史・地理	【代表的な研究テーマ】
keyword	<input type="checkbox"/> ディオクレティアヌス時代のローマ都市 <input type="checkbox"/> 近代フランスにおけるラテン碑文学の成立と北アフリカ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 古代ローマ ■ ラテン碑文 ■ デイオクレティアヌス ■ コンスタンティヌス ■ 北アフリカ ■ フランス 	課題解決に役立つシーズの説明
	<p>①ディオクレティアヌス時代のローマ都市</p> <p>ディオクレティアヌスは3世紀末のローマ皇帝である。3世紀に生じた政治的混乱を收拾し、宮廷儀礼から財政、司法まで、多岐にわたる改革を行ったことで知られている。その中でも、地方統治制度に関する改革を主たる研究テーマとしている。</p> <p>284年にディオクレティアヌスが即位したとき、ローマ帝国は概ね50程度の属州からなっていた。彼が治めた20年ほどの間に多くの属州が分割され、305年に彼が退位した時点では、その数は100を超えることになった。また、その細分化された複数の属州をまとめ、新たに12の管区も創設されている。この属州分割と管区の創設によって、地方都市に対する帝国の管理が強化されたと、長きにわたって主張されてきた。教科書的に言えば、「専制君主政」の開始、とされる時代である。</p> <p>しかし、近年の研究では、「専制君主政」という表現は用いられず、ローマの帝政後期を新たな視座から検討し直す動きが活発になっている。古代から中世への転換という大きな世界史の動きにも注意しながら、古代の地方都市の状況について研究を進めている。</p>
<p style="text-align: center;">大清水 裕 Yutaka Oshimizu</p>	<p>②近代フランスにおけるラテン碑文学の成立と北アフリカ</p>
<p style="text-align: center;">教育学部 准教授</p>	<p>歴史学の研究を進めるにあたって不可欠なのが、対象とする時代のことを記録した史資料である。上記の「ディオクレティアヌス時代のローマ都市」というテーマで研究を進める際、大きな役割を果たしたのが石に刻まれた碑文であった。古代のローマ帝国では、西方では主にラテン語が、東方ではギリシア語が用いられていた。この研究では主にラテン語の碑文を用いたが、その発見点数が特に多いのがチュニジアやアルジェリアといった北アフリカの国々である。</p> <p>これら北アフリカの国々は、現在ではイスラム教徒が圧倒的多数を占めている。そのため、その歴史研究の主眼はイスラム支配期以降に置かれ、ローマ支配の時代はそれほど関心を集めていない。他方、19世紀初めから20世紀半ばにかけてこの地を植民地として支配したフランスは、古代ローマを自らの過去とみなすヨーロッパの一国である。そのような歴史的経緯ゆえ、北アフリカの古代ローマ史研究はフランスがその中心となっている。しかし、その結果、古代ローマ時代の北アフリカを対象とした研究は、植民地に対する「文明化の使命」を標榜した近代フランス社会の影響を強く受けることになった。この研究では、近代フランスを代表する古代ローマ史家やラテン碑文学者を取り上げ、彼らの研究と同時代のフランス社会の関係について明らかにすることを目標としている。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋史学(古代ローマ史) ・ラテン碑文学 <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009年3月 東京大学大学院 人文社会系研究科 博士課程 修了 博士(文学)。 ・2009年4月～2012年3月 日本学術振興会 特別研究員 PD ・2012年10月～ 2013年3月 日本学術振興会 海外特別研究員 ・2013年4月～2015年3月 滋賀大学 教育学部 講師 ・2015年4月～現在 同准教授 	<p><主要業績></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大清水裕、『ディオクレティアヌス時代のローマ帝国：ラテン碑文に見る帝国統治の継続と変容』、山川出版社、2012年。 2. 本村凌二編著、池口守・大清水裕・志内一興・高橋亮介・中川亜希著、『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』、研究社、2011年。 3. 本村凌二編著、『ローマ帝国と地中海文明を歩く』、講談社、2013年。 4. ベルナル・レミイ著、大清水裕訳、『ディオクレティアヌスと四帝統治』、白水社、2010年。 5. ベルトラン・ランソン著、大清水裕訳、『コンスタンティヌス：その生涯と治世』、白水社、2012年。 6. ベルトラン・ランソン著、大清水裕・瀧本みわ訳、『古代末期：ローマ世界の変容』、白水社、2013年。